

学校の概要		学校名	茅野市立玉川小学校	学校長	小林 俊男	児童生徒数	686 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある				
				市町村教委		○				
				自治会代表		○				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○				
				PTA代表		○				
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○				
				学校長・教頭以外の学校職員		○				
				ボランティアと学校の情報交換会がある						
				ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	玉川小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)				
				地域住民、ボランティア代表、コミュニティセンター所長、保護司、主任児童委員、民生児童委員		地域コーディネーター 2 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人				
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月1日	1月13日	3月2日	中心のコーディネーターの立場(リストより選択) 具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
				その他		コミュニティセンター所長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	今も未来もwell-beingを味わう子ども									
地域と共有された育てたい子どもの姿	(1)自己決定し、自分らしく学ぶ子ども (2)利他的に行動するやさしい子ども (3)困ったことを他と協働し乗り越えたくましい子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			
2	学校運営への必要な支援について			○	2					
3	地域の実情や課題について			○	3		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5		協働活動に参加したボランティアの人数 ボランティア登録者人数 62 人 参加者延べ人数 261 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	○	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	読み聞かせ(ボランティア火・木/Zoom月・金)		米作り(5~11月)		キャッサバ栽培(4~2月)					
代表的な協働した活動の取組例										
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
4年4部の総合的な学習の時間では、南米原産の植物キャッサバ栽培に取り組んでいる。昨年度も4年生の1クラスで取り組み、2年続けて、給食に野菜を提供する地域の「じゃがいもの会」の皆さんに協力していただいている。本年度は、肥料についての相談に乗っていただいたり、畝づくりや苗植えに3名の会員の方が来て指導してくださったり、虫の駆除に有機薬剤を噴霧してくださったりした。また、子どもたちが畑の草取りや水やりをする際、給食の食材を届けにこられた会員の方と会い、日常的に交流をしている。 今後は、キャッサバを収穫し、販売をする計画を立てている。収益をどう生かすかは未定だが、募金等の案を検討中である。昨年度は、お世話になったじゃがいもの会の皆さんや栄養士の先生、玉川コミュニティ所長さん等をお招きし、お礼の会を開催した。会の中では、今までの過程を発表したり、タピオカドリンク等をつくって飲んだりした。今年度のお礼の会開催については、これからクラスで検討していく。キャッサバ栽培を通して、子どもたちは地域との交流や国際教育、食育など幅広い学びをしている。										
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題										
(運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)										
学年で固定化しつつある地域ボランティアが関わる活動(梅採り・梅漬け、オオムラサキ飼育、米作り)について、子ども主体で進めていく上で、地域の方の思いとどのように融合させていくか。 家庭教育支援部会の活動をさらに充実させ、地域の子育てネットワークを構築していきたい。 各部会の活動を充実させ、地域をつくる学校を目指したい。										